

「名前を見てちょうだい」

内容とあらすじ・テスト対策ポイント解説

「名前を見てちょうだい」の作者について

「名前を見てちょうだい」は、あまんきみこさんが書いたお話だよ。あまんきみこさんは、ほかにも「車のいろは 空のいろ」「おにたのぼうし」「白いぼうし」などの絵本をかいているよ。

「名前を見てちょうだい」登場人物（とうじょうじんぶつ）

【えっちゃん】

このお話のしゅ人公の女の子。名前はうめだ えつこちゃん。おかあさんから、赤いすてきなぼうしをもらったよ。ぼうしのうらには、「う、め、だ、え、つ、こ」とししゅうがしてあったよ。

【えっちゃんの おかあさん】

えっちゃんに赤いすてきなぼうしをくれたよ。

【きつね】

のはらで、赤いぼうしをかぶっていたきつね。名前はのはら こんきち。

えっちゃんが「あたしのぼうしよ。」と言うと、ぼうしのうらの名前は「の、は、ら、こ、ん、き、ち」だと言ったよ。



【牛】

こがね色の はたけで 赤いぼうしを かぶっていた 牛。名前は はなたか もうこ。えっちゃんと きつねが「あたしのよ。」「ぼくのだよ。」と言うと、ぼうしの うらの 名前は 「は、た、な、か、も、う、こ」だと言ったよ。

【大男】

七色の 林で ぼうしを ながめていた 木よりも高い 大男。ぼうしを たべてしまったよ。

「名前を見てちょうだい」のあらすじ

名前を 見て ちょうだい

作：あまん きみこ 絵：うめだ しゅんさく

えっちゃんは おかあさんから 赤いすてきなぼうしを もらいました。うらには 青い糸で 「う、め、だ、え、つ、こ」と えっちゃんの名前がししゅうしてある ぼうしです。

えっちゃんが ぼうしをかぶって さっそくあそびに出かけると、つよい風がふいて ぼうしは のはらへ とんでいきました。

のはらには きつねがいて 赤いぼうしを かぶっていました。

えっちゃんが 自分のぼうしだと言うと、きつねは 自分のぼうしだと しゅちょうしました。

二人で 名前を見てみると「の、は、ら、こ、ん、き、ち」と あるのでした。

ぼうしは つぎに こがね色のはたけへ とんでいきました。

はたけには 牛がいて 赤いぼうしを かぶっていました。



えっちゃんと きつねが 自分のぼうしだと言うと、牛は 自分のぼうしだと しゅちょうしました。

三人で 名前を見てみると「は、た、な、か、も、う、こ」と あるのでした。

ぼうしは つぎに 七色の林へ とんでいきました。

林には 大男がいて ぼうしを たべてしまいました。

そして えっちゃんと きつねと 牛を じろりと 見下ろしながら 「まだ何かたべたいなあ。」と 言いました。

きつねと牛は にげますが、えっちゃんは 「あたしは かえらないわ。だって、あたしのぼうしだもん。」と 言いました。

すると、ふしぎなことが おこりました。

えっちゃんの体から 湯気が出て、大男と同じくらい 大きくなったのです。

えっちゃんが「あたしのぼうしを かえしなさい。」と 手のひらをまっすぐのばすと、大男は 空気のもれる 風せんのように しぼんで 見えなくなりました。

そのあとに のこされた 赤いぼうしには たしかに えっちゃんの名前がありました。

えっちゃんは ぼうしをかぶると あっこちゃんのうちに あそびに 行きました。

名前を見てちょうだい 内容とポイント

「名前を見てちょうだい」の場面（ばめん）分けごとに、内容（ないよう）とポイントを かくにんしよう。



場面は、「場しょ」や「登場人物」、「時間」などが かわったところをヒントにして かんがえるといいよ。

登場人物の セリフや こうどうから、「登場人物が どんな気もちだったか」を かんがえてみよう。

だいの ばめん えっちゃんが お母さんから ぼうしをもらう

【場しょ】（えっちゃんのいえ）

【登場人物】えっちゃん・えっちゃんのおかあさん

【ないよう】えっちゃんが おかあさんから ぼうしをもらったよ。

えっちゃんは おかあさんから ぼうしを もらったね。
どんな ぼうしかというと、「赤いすてきなぼうし」で 「ぼうしのうらに、青い糸で 名前が ししゅうしてある」ぼうしだね。

「ししゅう」は ぬのに 糸で もようを ぬうことだよ。
えっちゃんの名前を ていねいに ししゅうしてくれたなんて、えっちゃんに よろこんでもらいたいなという おかあさんの 気もちが こめられている かんじがするね。

えっちゃんは「う、め、だ、え、つ、こ。うふっ。ありがとう。」と 言ったね。

名前を 一文字ずつ ていねいに 読んでいるところから えっちゃんが とてもよろこんでいることが わかるね。

「うふっ」という わらいかたも、うれしくてうれしくて 思わず ニコニコしてしまった かんじがするよね。

きっと「わーい。あたしの ぼうしだ！うれしいな、きにいったな。」という 気もち だったんじゃないかな。



えっちゃんは、ぼうしを ぎゅうっとかぶって、さっそく あそびに出かけたよ。

「ぎゅうっとかぶって」ということは、だいじなぼうしだから とんでいかないように しっかりかぶったんじゃないかな。

「さっそく出かけた」ということは きっと「すてきなぼうしを かぶって早く外に行きたいな。だれかに 見せたいな。」と ウキウキだったんだね。

だい二の 場めん 風が えっちゃんのぼうしを さらう

【場しょ】 門を出たとき

【登場人物】 えっちゃん

【ないよう】 つよい風が ふいて、えっちゃんのぼうしを さらったよ。

つよい風が ふいて、いきなり ぼうしを さらったね。
ぼうしが どこへ行ったかというと、 のはらの方だね。

えっちゃんは 「こら、ぼうし、まてえ。」と言って、はしりだしたね。
きっと「せっかく もらったぼうしなのに とんでいかないでー！」「ぼうしを つかまえなきゃ！」という 気もちだったんじゃないかな。

お話と いっしょに かかれている 絵を見ると、えっちゃんが いっしょうけんめい ぼうしを おいかけているね。



だい三の 場めん きつねが 赤いぼうしを かぶる

【場しょ】のはら

【登場人物】えっちゃん・きつね

【ないよう】きつねが 赤いぼうしを かぶっていて、自分のぼうしだと言ったよ。

のはらには、赤いぼうしを ちょこんと かぶった きつねが いたね。

だいの 場めんて えっちゃんは ぼうしを「ぎゅうっと」かぶったけれど、きつねは「ちょこんと」 かぶっていたんだね。

頭にのせたくらいの かるい気もちだったのかもしれないし、サイズもあっていないのかもしれないね。

えっちゃんが「それ、あたしのぼうしよ。」と言うと、きつねは すまして「ぼくのだよ。」とこたえたね。

「すまして」だなんて、きつねは「え、何のこと？ えっちゃんのぼうしなんて しりませんけど？」と とぼけている かんじがするね。

えっちゃんが「名前を見てちょうだい。」と言うと、きつねは、しぶしぶ ぼうしをぬいで「ほうら、ぼくの名前だよ。の、は、ら、こ、ん、き、ち。」と言ったね。

えっちゃんは、「へんねえ。」と言って、もう一度 たしかめようとしたね。

なぜかというと「あたしのぼうしの はずなのに おかしいな。」と ふしぎに思ったり、「なっとくできないな。」と思ったり したんじゃないかな。

ぼうしの名前が ほんとうに かわっていたのか、どうして かわっていたのか、くわしいことは わからないね。



ぼうしは、こがね色の はたけの方へ とんでいったから えっちゃんときつねは おいかけたよ。

だい四の 場めん 牛が 赤いぼうしを かぶる

【場しょ】こがね色の はたけ

【登場人物】えっちゃん・きつね・牛

【ないよう】牛が 赤いぼうしを かぶっていて、自分のぼうしだと言ったよ。

こがね色の はたけには、赤いぼうしを ちょこんと かぶった 牛がいたね。

牛も きつねと同じように 「ちょこんと」かぶっていたんだね。

お話といっしょに かかれている絵を見ると 牛には ぼうしが小さすぎるよね。

えっちゃんが「それ、あたしのよ。」、きつねが「ぼくのだよ。」と言うと、牛は すまして「わたしのですよ。」と こたえたね。

牛も きつねと同じように 「なんのこと？」と とぼけたんだね。

えっちゃんと きつねが「名前を見てちょうだい。」と言うと、牛は、しぶしぶ ぼうしを ぬいで「ほうら、わたしの名前だよ。は、た、な、か、も、う、こ。」と言ったね。

えっちゃんと きつねは「へんねえ。」と言って、かおを見合わせたね。

えっちゃんも きつねも「あたしの（ぼくの）ぼうしのはずなのに おかしいな。」とふしぎに思ったんだね。

こんどは ぼうしは、七色の林の方へ とんでいったから、えっちゃんと きつねと 牛は おいかけたよ。



だい五の 場めん 大男が 赤いぼうしを 食べる

【場しょ】七色の林

【登場人物】えっちゃん・きつね・牛・大男

【ないよう】大男が 赤いぼうしを たべたよ。えっちゃんは おこって「あたしのぼうしを かえしなさい。」と 言ったよ。

えっちゃんが 行った場しょと 人ぶつの じゅんばんは だいじだよ。場しょは「のはら」→「こがね色の はたけ」→「七色の 林」と かわっていったね。えっちゃんが 会った 人ぶつは「きつね」→「牛」→「大男」のじゅんばんだね。

大男が ぼうしを たべる

七色の林には 大男がいて、ぼうしを りょう手でもって ふしぎそうにながめていたよ。

どんな大男かというと、「木よりもたかい」「どかんとすわっている」大男だね。

お話といっしょに 書かれている絵を 見ると、えっちゃんたちと 大男の大きさの ちがいが よくわかるね。

「ふしぎそうに」とあるから、大男は 小さなぼうしが 何をするものかわからなかったのかも しれないね。

えっちゃんと きつねと 牛が「名前を 見て ちょうだい。」と言うと、大男は えっちゃんたちを じろりと 見下ろしたね。

そして、ぼうしを口の中に入れ、「たべちゃったよ。だから、名前も たべちゃった。」と すまして こたえたね。



大男は 「名前を 見て ちょうだい。」と 言われたのに 名前を見ずに、いきなり ぼうしをたべたり、「名前も たべちゃった。」といじわるなことを 言ったり なんだか らんぼうだね。

それに えっちゃんたちを じろりと 見下ろしていて 小さな人や どうぶつを バカにしているかんじがするね。

それから、大男は 「もっと 何か たべたいなあ。」と言ったね。きっと「三人とも おいしそうだな。たべてやろう。」という 気持ちだったんじゃないかな。

「したなめずりをして」「じろりじろり 見下ろしながら」という こうどうも えっちゃんたちを おいしそうなえもの と思っていそうだよね。

すると 牛も きつねも 「早く かえらなくっちゃ。いそがしくて、いそがしくて。」と言って、はしっていったね。

なぜかという「大男に たべられちゃう。とにかく にげなきゃ。」と思ったんだね。

「あとずさりをしながら」「くるりと おきを かえると」「風のように はしって」という こうどうから、こわくて ひっして にげた 牛やきつねの 気持ちを そうぞうできるね。

おこった えっちゃんの体が 大きくなる

けれども えっちゃんは にげなかったよ。

なぜかという、ぼうしを たべられて おこったからだね。

えっちゃんは 「あたしは かえらないわ。だって あたしのぼうしだもん。」と言ったね。

「おねをはって」「大男を きりりと見上げて」という こうどうから えっちゃんが どうどうと 大男に 立ちむかっていったことが わかるね。とてもつよくて かっこいいね。



すると えっちゃんの 体から 湯気ゆげが もうもうと出て、ぐわあんと大きくなったね。

そして、えっちゃんは「たべるなら、たべなさい。あたし、おこっているから あついわよ。」と 言ったね。

みんなも おこっているときは、いきが あらあらしくなったり、おこっている気もちが メラメラと もえるように からだが あつくなったりするよね。

えっちゃんも 本気でおこっているから、体が あつくなっただね。

「もうもうと」ということは、つきからつきへと 湯気が出ている ということだね。

「ひどいよ!」「ゆるせない!」「ぜったいにまけないぞ!」など、えっちゃんのおこっている気もちが どんどん あふれてきているかんじがするね。

それから えっちゃんは 大男と 同じ大きさに なったね。

えっちゃんは たたみのような 手のひらを まっすぐ のばして「あたしのぼうしを かえしなさい。」と言ったね。

「たたみのような 手のひら」ということばから えっちゃんが とても大きくなったことが わかるね。

「手のひらを まっすぐのばして」という うごきからも 「ぜったいにかえしなさい」という つよい 気もち、本気の気もちが つたわってくるね。

お話と いっしょに かかれている絵を 見ると、えっちゃんは どうどうと立っていて、しんけんで きりりとにらむような こわい顔をしているよね。

「あたしのぼうしを かえしなさい。」は 教科書でも ふとい字で かかれていて きょうちょうされているね。えっちゃんの つよい気もちが



あらわれているから、おなかから 声を出して、大きな声で 音読しよう。

えっちゃんは どうして 大きくなったのかな。

それは きっと「ぼうしも 名前も あたしのだいじなものだから ぜったいにとりかえすぞ!」という つよい気もちが えっちゃんを 大きくしたんじゃないかな。

おかあさんから もらった、自分の名前が ししゅうされている 赤いぼうしは えっちゃんにとって とくべつで 気に入っていたよね。そんなぼうしを かってにたべられて おまけに 名前まで たべられたから えっちゃんは おこったよね。

だから 大きくなった えっちゃんの体は 「ぼうしも 名前も あたしのだいじなもの」という ほこりや 「あたしのぼうしを かえして」という つよい気もち そのものなんじゃないかな。

はんたいに 牛ときつねは にげたよね。

ということは 牛ときつねにとって 赤いぼうしは そこまで だいじなぼうしでは なかったんじゃないかな。

「ぼうしが 風で とんできた。ラッキー。かぶっちゃえ。」くらいの 気もち だったのかもしれないね。

大男は 空気のもれる 風せんのように、しぼんで、しぼんで、しぼんで、とうとう 見えなくなったね。

「空気のもれる 風せん」は シュルシュルシュルと あっという間に 小さくなるよね。

大男も 風せんのように 見る見る間に 小さくなったんだね。

きっと 大男は じろりと見下していた女の子が おこって 自分と同じくらい大きくなったから こわくなったんじゃないかな。



「ぶるっと みぶるい」「ぶるぶる ふるえながら」という ようすからも、大男が こわがっているようすが わかるね。
すっかり こわくなって 空気が もれるように 体中の力が ぬけてしまったのかもしれないね。

えっちゃんが 全力で ぼうしを とりかえそうとした つよい気もちが大男を やっつけたんだね。

そのあとには、ぽつんと 一つ、小さな 赤いもの があったよ。
「小さな 赤いもの」は えっちゃんの ぼうしだね。

このときの えっちゃんの体は まだ大きいままだし、大男は 見えなくなってしまったから きっと ぼうしだけが 「ぽつんと」 のこされたように 見えたんだね。

えっちゃんは 「ああ、よかった。」と言ったね。
なぜかという、 「う、め、だ、え、つ、こ」と 名前がかいてあって、自分の だいじなぼうしも 名前も ぶじに もどってきたからだね。

そして、ぼうしを 頭にのせると、えっちゃんは 元の大きさに なったよ。

だい六の 場めん えっちゃんは あっこちゃんのうちに あそびに行く

【登場人物】 えっちゃん

【ないよう】 えっちゃんは あっこちゃんのうちに あそびに行ったよ。

えっちゃんが あっこちゃんのうちに あそびに行くところで このお話はおわるよ。

「あっこちゃん」がだれかは 書いていないけれど、きっと えっちゃんと なかよしの ともだちだね。



お話と いっしょに かかっている えっちゃんの絵を見ると、ニコニコしているね。

さいごのぼめんは とてもみじかいけれど だいじなぼうしも 名前も ぶじに とりもどせて ほっとした えっちゃんの気持ちがつたわってくるね。

えっちゃんにとって ぼうしはもちろん、名前は とても だいじなものだったね。

名前は みんなが うまれてから さいしょに プレゼントしてもらった、かぞくからのあいが こめられたものだよ。

えっちゃんの名前も、みんなの名前も、「自分らしさ」をあらわす かけがえのない たからものだよ ということを 作者は 伝えたかったのかも もしれないね。

「名前を見てちょうだい」ことばの意味

「名前を見てちょうだい」で どうしようする ことばの意味を まとめているよ。

※「名前を見てちょうだい」の 中で つかわれている 意味なので ちゅういしよう。

ことば	ことばの意味
ししゅう	ぬのなどに 糸で 絵や 文字を ぬって あらわすこと
さらう	とつぜん うばい取ること 本文「ぼうしを さらって いました」
すます	まじめそうな 顔つきを する ようす 本文「きつねは、すまして こたえました」
しぶしぶ	いやいやながら、しかたなく する ようす 本文「きつねは、しぶしぶ ぼうしを ぬいで」



ことば	ことばの意味
こがね色	金色(きんいろ)のこと 本文「こがね色の はたけの 方へ」
まぶしい	光が つよくて ちゃんと 見れない ようす 本文「まぶしそうに 見上げて」
見合わせる	おたがいに 顔を 見ること 本文「かおを 見合わせた とき」
ながめる	じっと 見つめる ようす 本文「ふしぎそうに ながめて いました」
見下ろす	上から 下の方を 見ること 本文「じろりと 見下ろしました」
したなめずり	おいしそうな ものを 見て したを 出して くちびるを なめまわすこと 本文「大男は、したなめずりを して」
あとずさり	こわがって 前をむいたまま 少しずつ 後ろに さがること 本文「牛が、あとずさりを しながら」
つぶやく	小さな こえで ひとりごとを いうこと 本文「ぶつぶつ つぶやきました」
おねをはる	自しんを もった ようす 本文「おねを はって」
きりり	つよく、ひきしまった ようす 本文「きりりと 見上げて」
湯気	おゆなどから のぼる 白い けむりのように みえるもの 本文「湯気が もうもうと 出て」
みぶるい	さむさや おそろしさで 体が ふるえること 本文「ふるっと みぶるいを しました」
もれる	すきまなどから こぼれおちるたり 出てくること 本文「空気の もれる 風せん」
しばむ	いきおいが あったものが よわくなって 小さくなる ようす 本文「風せんのように しばんで」
ぽつん	一つだけが きりはなされて ある ようす 本文「ぽつんと 一つ」



段落分けのポイント

段落（だんらく）・ばめん とは

「段落（だんらく）」とは、文しょうを、ないようの まとまりごとに わけた ひとつぎりの もののことだよ。

段落を、さらに いみの つながりで ひとまとめにしたものを「意味段落（いみだんらく）」と よぶよ。

これまで、おはなしを いくつかの「場めん」に わけてきたと おもうけれど、この「場めん」とは「意味段落でわけたもの」だったんだね。

だんらく・場めんの わけかた

「場めん（だんらく）わけ」には、ポイントがあるよ。

・時間が かわる

「つぎの日」とか、「夜になると」のように、時間がたったり したところで ばめんが わけられるよ。

・場所が かわる

「公園につきました」とか、「学校では」など、それまでとは 場しょがかわると 場めんが わけられるよ。

・新しい とうじょう人ぶつ

「おばあさんが やってきました」とか、「おとうさんが かえってきました」など、これまで いなかった 新しい とうじょう人ぶつが 出て きたら 場めんが わけられたりするよ。



「名前を見てちょうだい」の ばめんわけ

「名前を見てちょうだい」は、6つの 場めん に わけられるよ。

場めん	場面わけの 場しよ
だい1の 場めん	56ページ1行目～8行目 「えっちゃんは、おかあさんに 赤い すてきな ぼうしを もらいました。」～「そして、さっそく、あそびに 出かける ことに しました。」まで。
だい2の 場めん	57ページ1行目～11行目 「さて、えっちゃんが 門を 出た とき、つよい 風が ふいて きて、いきなり ぼうしを さらって いました。」～「ぼうしは、リボンを ひらひらさせながら、のはらの 方へ とんで いきます。」まで。
だい3の 場面	58ページ1行目～59ページ9行目 「えっちゃんが その のはらに はして いくと、赤い ぼうしを ちょこんと かぶった きつねが ーぴき、白い すすきを もって、プープー ふいて いました。」～「ぼうしは、リボンを ひらひらさせながら、こがね色の はたけの 方へ とんで いきます。」まで。
だい4の 場面	59ページ10行目～61ページ7行目 「えっちゃんたちが その はたけに はして いくと、赤い ぼうしを ちょこんと かぶった 牛が ーぴき、青い 空を まぶしそくに 見上げて いました。」～「ぼうしは、リボンを ひらひらさせながら、七色の 林の 方へ とんで いきます。」まで。
だい5の 場面	61ページ8行目～66ページ9行目 「えっちゃんたちが、その 林に 入って いくと、木よりも たかい 大男が、どかんと すわって いました。」～「ぼうしを 頭に のせると、あらら、えっちゃんは、元の 大きさに なって いました。」まで。
だい6の 場面	66ページの10行目～11行目 「それから、えっちゃんは、あっこちゃんの うちに あそびに 行きました。」まで。

